

ICTとコア技術を両輪として、 Transform（革新）の連鎖反応を

コニカミノルタ株式会社 代表執行役社長 山名 昌衛



21世紀に入り既に15年目となっている。現在、この時代は不確実な時代と言われており、いつまでも同じ事業で持続的優位性を保つことが困難な環境となっている。このような状況のもとでも製造業として、グローバルな戦いで生き残り、持続的成長を遂げていくために、いくつかの大きな潮流に着目している。その潮流とは、ICT（Information and Communication Technology）関連では、ソーシャル・ネットワークの拡大やスマート技術の発達であり、環境・エネルギー関連では、環境保護主義の台頭や気候変動による危機、資源をめぐる地政学的リスクの増大等である。また、先進国の高齢化や女性の社会進出、途上国の経済的発展なども挙げられよう。

この潮流のなかで、特にICTに関わるドイツのIndustry 4.0に象徴されるDigital Manufacturing、もう一つはビッグデータを活用することで事業を強くするDigital Marketingの流れに注目している。Digital Manufacturingは、モノづくりを生業とする製造業にとって、業態を革新的に変化させる製造技術であり、製品設計と製造プロセスの連携を強化できる。その結果、バーチャルな環境で製品設計と製造プロセスの構築を同時進行することが可能であり、部品の不具合のフィードバックやシミュレーションによる製造プロセスの最適化が可能となる。ここでは、3Dプリンターによる小ロット多品種生産や、複雑な構造物の一体成型も有効だろう。また、Digital Marketingは、ビッグデータから抽出した顧客ニーズを活かしてのスピード感あるマーケティング活動および事業拡大に寄与することが出来るものと考えられる。

コニカミノルタには、ICTを含む基盤技術と12のコア技術があるが、コニカミノルタが直面する経営課題についてこれらが果たす役割は大きいと認識している。

例えば、最新のICT技術を組み込んで、「顧客」と共に「新しい価値」を創造した例として、情報機器事業では、複合機連携クラウドプラットフォームによる業務の効率化につながるサービスの提供や、企業の販促用印刷物の製作工程を一元管理し、品質・コスト・納期を適正化するMPM（Marketing Print Management）が挙げられる。また、ヘルスケア事業では、在宅医療・介護の多職種間の情報連携システムがあり、本レポートでもその一部を掲載している。

一方、コア技術に関しては、その探索と深化の両軸で強化を図り競争優位を持つ技術を開発し、グローバル人材を活用して事業化を図ることを期待している。顧客がいまだ気付いていない新たな価値を掘り起こす、すなわち潜在的なニーズを発掘し、これにICTとコア技術を組み合わせることによってイノベーションを創出し、事業開発を推進する。その際に必要となる不足技術については、アライアンス等で補強する。この取り組みをコニカミノルタのあらゆる事業領域で強化していくことにより各事業領域の一時的競争優位を鎖のように繋ぎ、連鎖反応を起こすことが、Transform（革新）の目指す姿である。

持続的競争優位を保つことが困難な時代にあつて、このような技術融合とそこでのイノベーション創出を技術者に期待したい。変化のスピードが速い不確実な今こそチャンスである。